

立木調査とりまとめ表（黒谷横根尾）

	樹種	立木 本数	胸高直径 cm	樹高 m	プロット 材積m3 ※1	伐倒 本数 ※2	伐倒 材積 m3	伐倒木 胸高直径 cm	残存 本数	残存木 直径 cm	残存木 樹高 m
プロット1	スギ	16	28	21	10.140	5	3.390	29	11	27	21
プロット2	スギ	10	35	24	11.100	3	3.620	37	7	35	23
プロット3	スギ	14	30	25	11.380	5	3.840	28	9	30	25
プロット4	スギ	17	28	24	12.450	6	4.110	27	11	28	24
プロット5	カラマツ	11	26	25	7.070	3	2.330	28	8	25	25
平均		13.6	29	24	10.428	4.4	3.458	30	9.2	29	24

本数伐採率
32.4%

伐採前後比較

	相対幹距比	形状比
前	11	81
後	14	81

相対幹距比…樹高に対する立木間の距離割合
 (20前後：適切、17未満：やや過密、14未満：過密)

形状比…胸高直径に対する樹高の割合
 (70以下：適切、80以上：気象害リスク高い)

搬出材積

伐倒材積m3/ha	×	造材歩留まり	×	用材歩留まり	=	搬出材積m3/ha	面積	設計数量
345		0.6		0.4		83	11.71	972
①		②				補助単価上限80m3/ha	③	

※1 プロット材積は、調査木の胸高直径と樹高別に「立木幹材積表」から引用した単木材積の計。
 (「立木幹材積表 西日本編」(株)日本林業調査会(1970)林野庁計画課編)

※2 現地条件から架線系の集材システムを採用するため、列状に機械的な選木をおこなっている。

立木調査とりまとめ表（一色カラ谷）

	樹種	立木 本数	胸高直径 cm	樹高 m	プロット 材積m3 ※1	伐倒 本数 ※2	伐倒 材積 m3	伐倒木 胸高直径 cm	残存 本数	残存木 直径 cm	残存木 樹高 m
プロット1	スギ	10	34	25	10,540	3	3,460	35	7	33	25
プロット2	スギ	11	29	25	8,760	4	2,880	28	7	30	25
プロット3	スギ	16	27	26	11,090	6	3,680	25	10	28	26
プロット4	スギ	12	33	21	9,670	4	3,180	32	8	33	21
プロット5	スギ	12	29	20	7,470	4	2,420	29	8	29	20
平均		12.2	30	23	9,506	4.2	3,124	30	8.0	31	23

本数伐採率
34%

伐採前後比較

	相対幹距比	形状比
前	12	77
後	15	76

相対幹距比…樹高に対する立木間の距離割合
 (20前後：適切、17未満：やや過密、14未満：過密)

形状比…胸高直径に対する樹高の割合
 (70以下：適切、80以上：気象害リスク高い)

搬出材積

$$\begin{array}{ccccccc}
 \text{伐倒材積m3/ha} & \times & \text{造材歩留まり} & \times & \text{用材歩留まり} & = & \text{搬出材積m3/ha} & \text{面積} & \text{設計数量} \\
 312 & \times & 0.65 & \times & 0.4 & = & 81 & 12.88 & 1,043 \\
 \text{①} & & \text{②} & & & \text{補助金80m3/ha以上だしても} & & \text{③} & \\
 & & & & & \text{標準単価変わらない} & & &
 \end{array}$$

※1 プロット材積は、調査木の胸高直径と樹高別に「立木幹材積表」から引用した単木材積の計。
 (「立木幹材積表 西日本編」(株)日本林業調査会(1970)林野庁計画課編)

※2 現地条件から架線系の集材システムを採用するため、列状に機械的な選木をおこなっている。